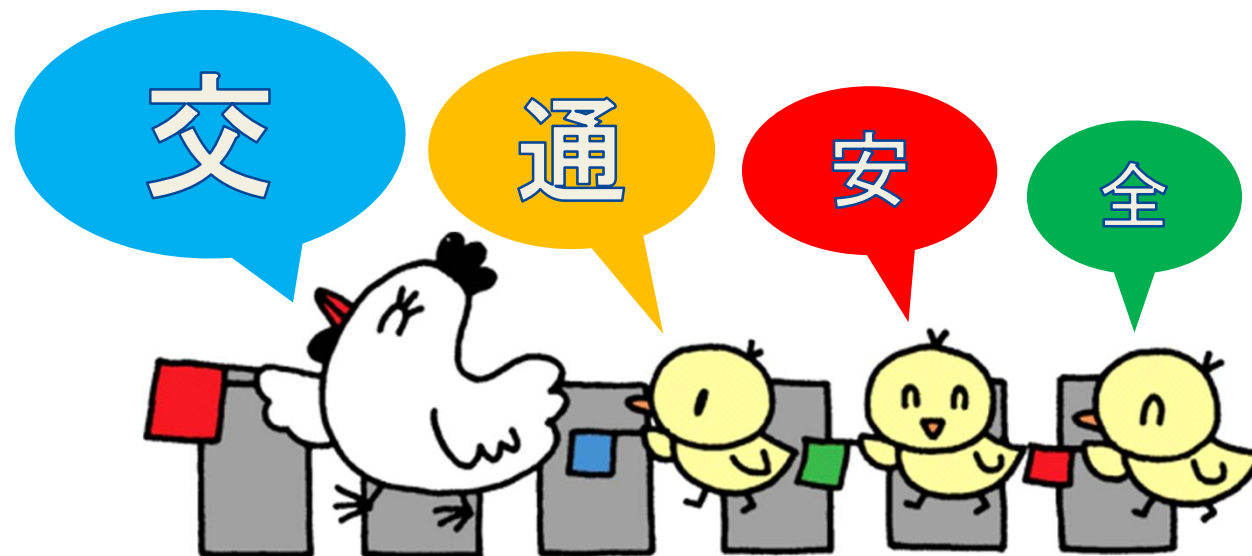


鹿児島市セーフコミュニティ

交通安全対策委員会～活動報告～



報告者：交通安全対策委員会 委員長 松元 雄樹

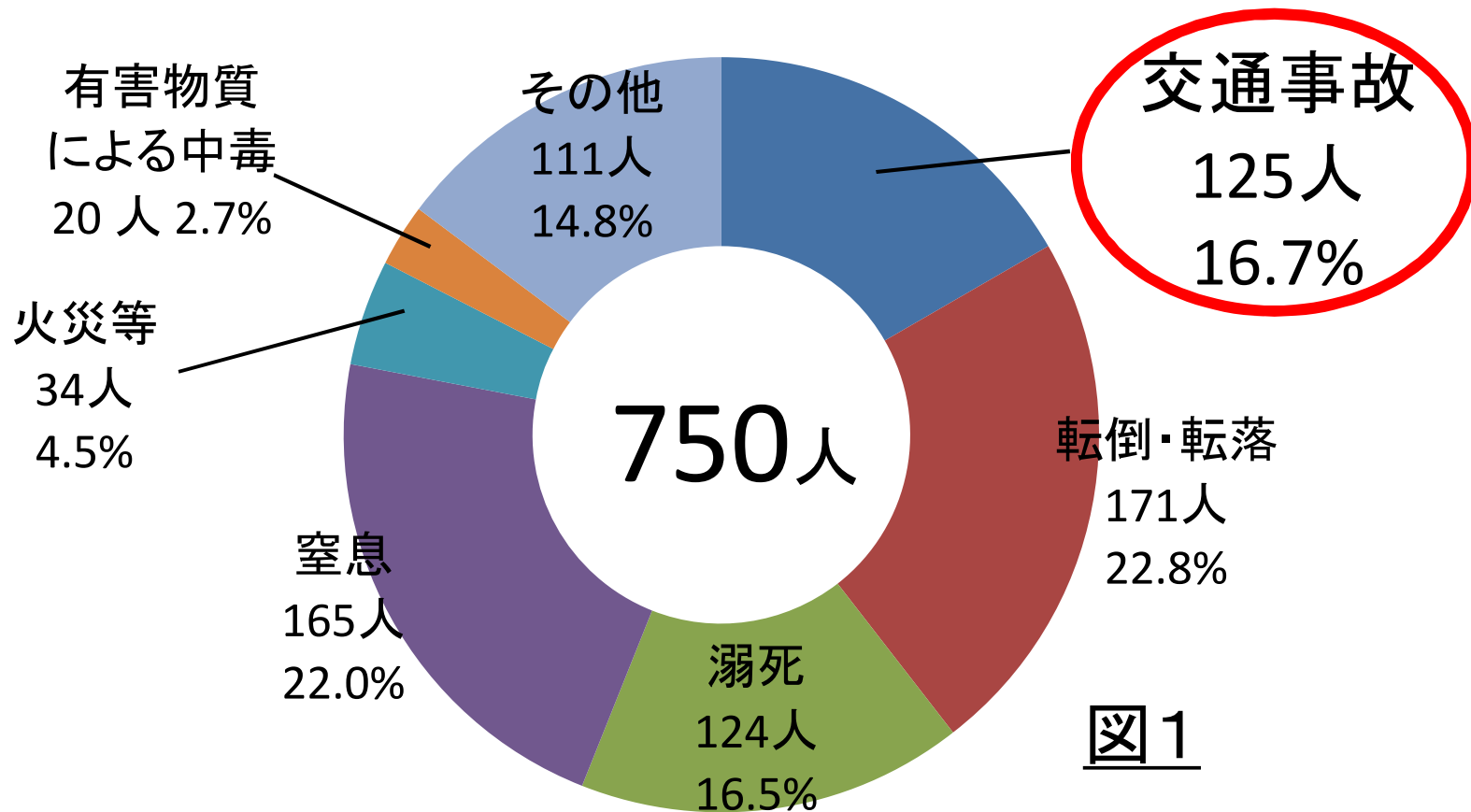
所属：鹿児島県交通安全協会 専務理事

報告者：交通安全対策委員会 委員 宮里 直治

所属：吉野校区安心安全ネットワーク会議 役員

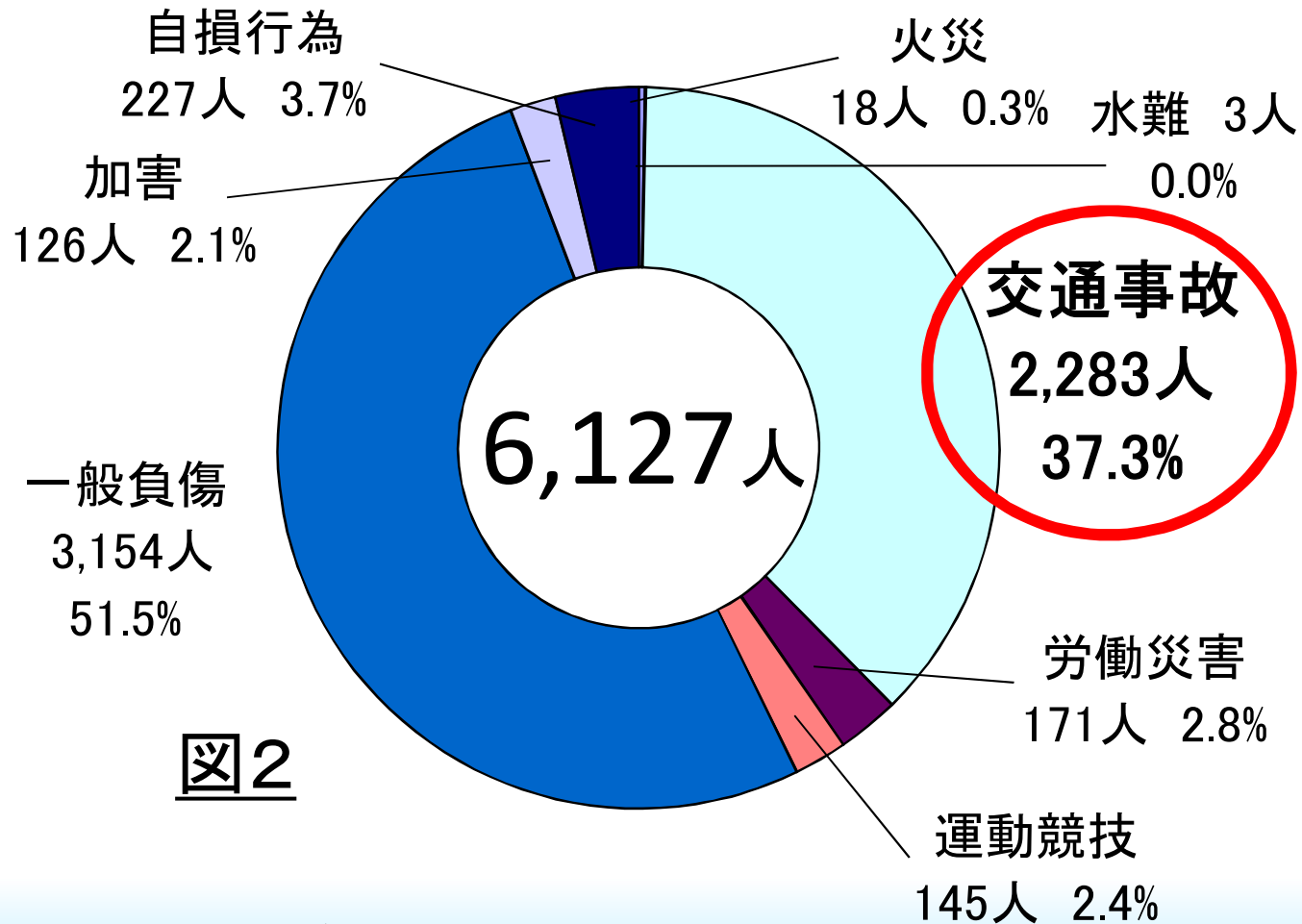
(現状1) 不慮の事故による死亡状況

不慮の事故による死者のうち約2割が交通事故



(現状2) 救急搬送者の状況

救急搬送者の約4割が交通事故に起因

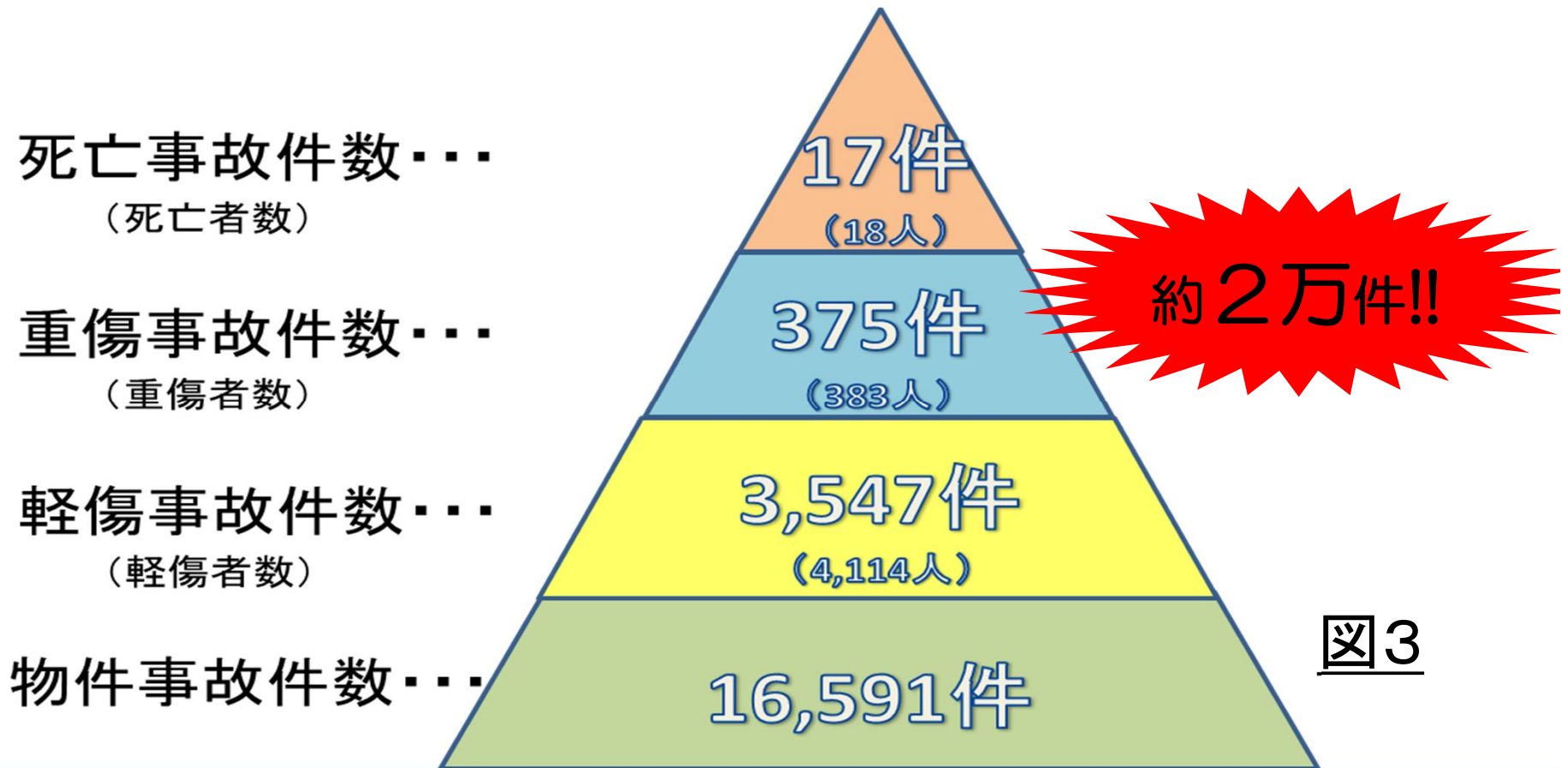


【出典】消防年報(市消防局) 【データ】市、両性、全年齢、2013年

※救急搬送のうち、急病、その他(転院搬送など)を除く

(現状3) 交通事故発生件数

年間2万件を超える交通事故が発生しており、
約4,500人が死傷



【出典】交通事故統計分析表(鹿児島県警察) 【データ】市内三署(高速道路を除く)、両性、全年齢、2013年

交通安全対策委員会設置の背景

(現状1)

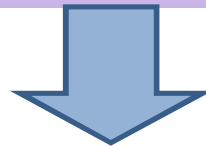
不慮の事故による死者のうち
約2割が交通事故

(現状2)

救急搬送者の約4割
が交通事故に起因

(現状3)

年間2万件を超える
交通事故が発生



交通安全対策委員会を設置
～目的:交通事故の減少～

交通安全対策委員会の委員構成

住民組織(1)

吉野校区安心安全ネットワーク会議
【モデル地区代表者】

計22名
で構成

学生(2)

志學館大学学生

関係団体(6)

県交通安全協会
県交通安全協会鹿児島中央地区協会
市PTA連合会
市交通安全母の会
日本自動車連盟鹿児島支部
市老人クラブ連合会

行政(9)

鹿児島国道事務所
県鹿児島地域振興局
市消防局
市教育委員会
その他関係部局

警察(4)

県警察本部、警察署

交通安全対策委員会の開催経過

会議	開催日		協議内容
第1回	2013年	5月27日(月)	既存データによる現状把握 目的・具体的な目標(案)の検討・決定
第2回		7月10日(水)	交通安全に関する意見交換 モデル地区(案)の検討・決定
第3回		7月30日(火)	吉野小校区における交通安全に関する取組の紹介 交通安全に関する取組の対象者・取組内容の検討
第4回		10月 1日(火)	交通安全に関する取組の対象者・取組内容の決定
第5回		11月 1日(金)	対象者ごとに設定した取組内容の実施方法等の検討
第6回	2014年	2月 6日(木)	吉野小校区における取組の実施状況の確認、検証 取組の評価指標の検討・決定
第7回		5月 8日(木)	吉野小校区における取組の実施状況の確認、検証 今後の取組の検討
第8回		7月15日(火)	吉野小校区における取組の実施状況の確認、検証 プレ現地審査発表資料の検討
第9回		9月30日(火)	プレ現地審査リハーサル

現状把握

取組検討

モデル地区
での展開

リハーサル

(分析1) 交通事故死傷者の発生状況

事故状態別では自動車等乗車中が8割を占める

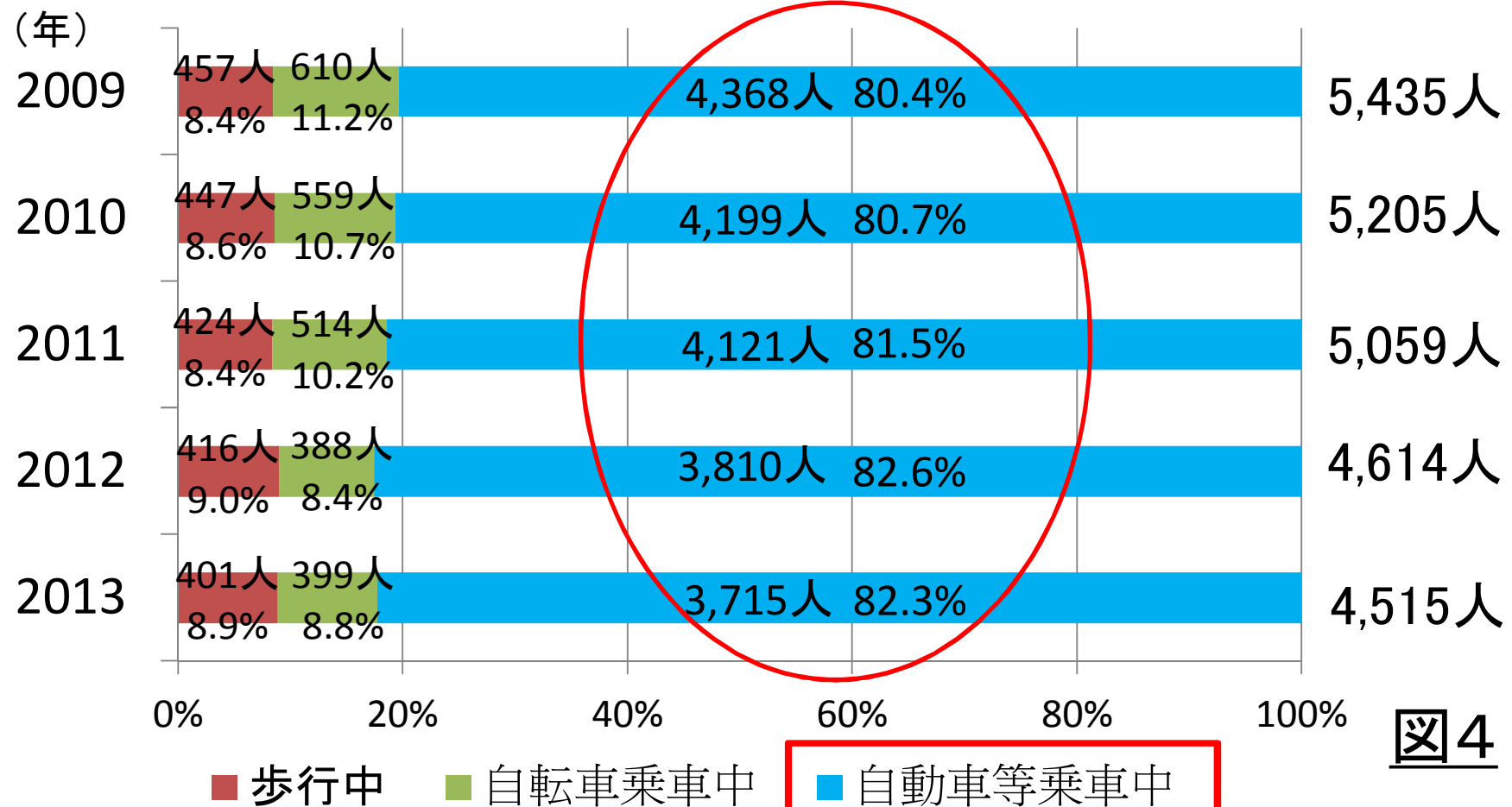


図4

【出典】交通事故統計分析表(鹿児島県警察) 【データ】市内三署(高速道路を除く)、両性、全年齢
2009~2013年

(分析2) 運転者の事故原因

ちょっとした不注意が交通事故を引き起こしている

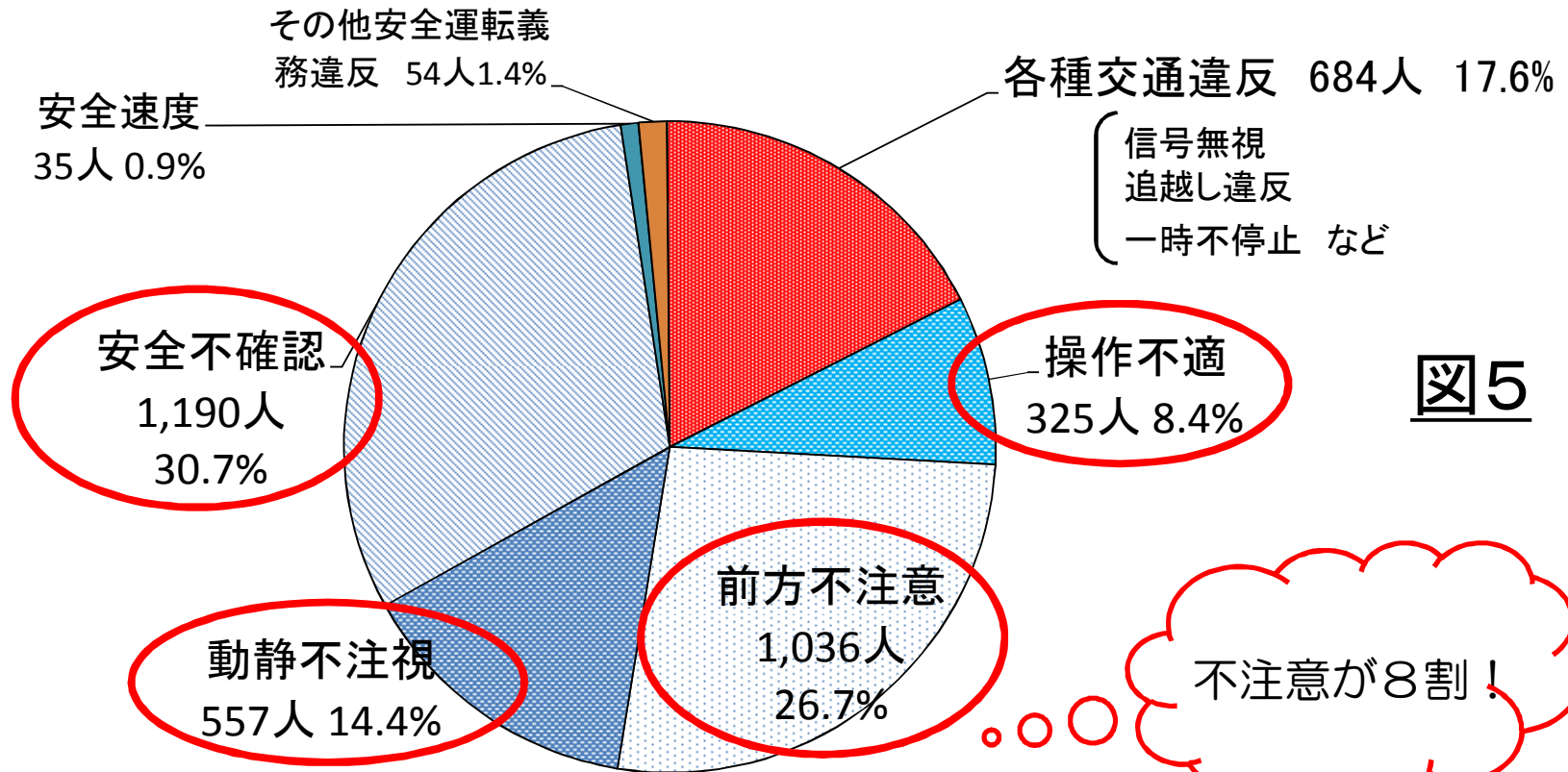


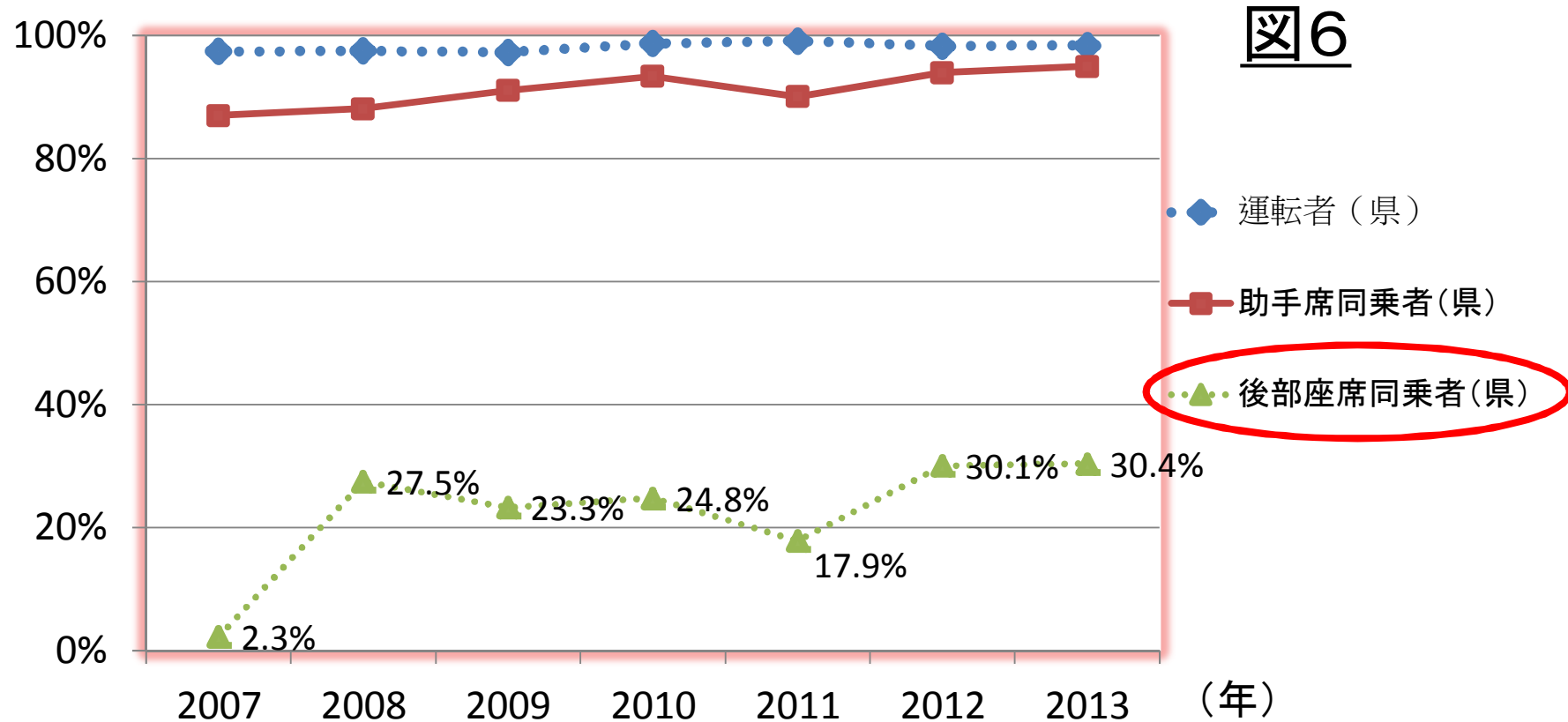
図5

(第1当事者のみ)

【出典】鹿児島県警察本部(交通企画課)調べ 【データ】市(高速道路を含む)、両性、全年齢、2013年
※車両(軽車両を除く)・路面電車に原因

(分析3) シートベルト着用率の推移

後部座席のシートベルト着用率が非常に低い



【出典】シートベルトの着用状況全国調査(警察庁、日本自動車連盟) 【データ】県(一般道路のみ)
両性、全年齢、2007~2013年

(分析4) 交通事故による年齢層別死者の状況

死者は65歳以上の高齢者が特に多く、
そのうち歩行中の死者が約7割を占める

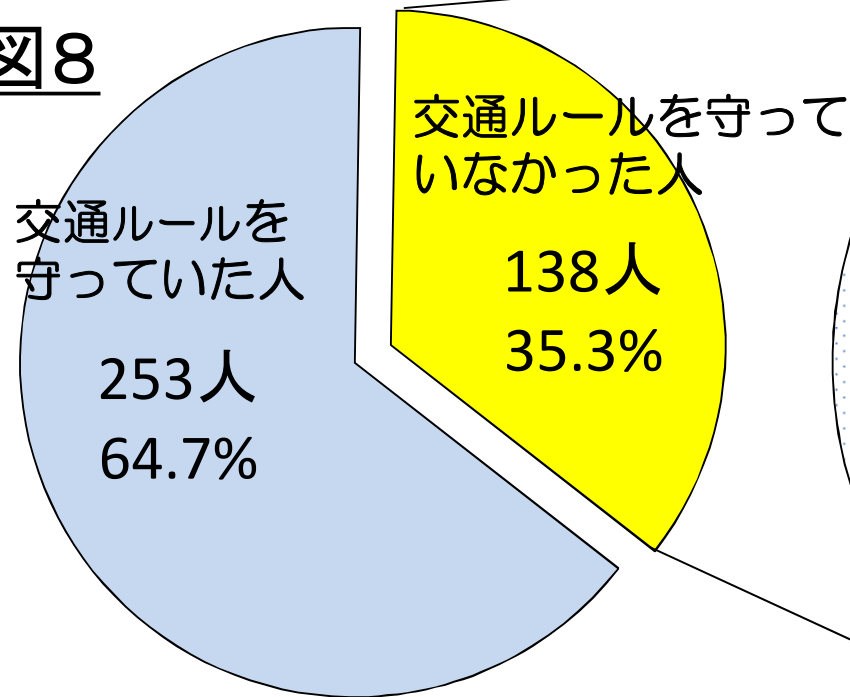


(分析5) 年齢層別の交通事故死傷者数

歩行中、交通ルールを守らずに交通事故に遭い、死傷したのは65歳以上が多い

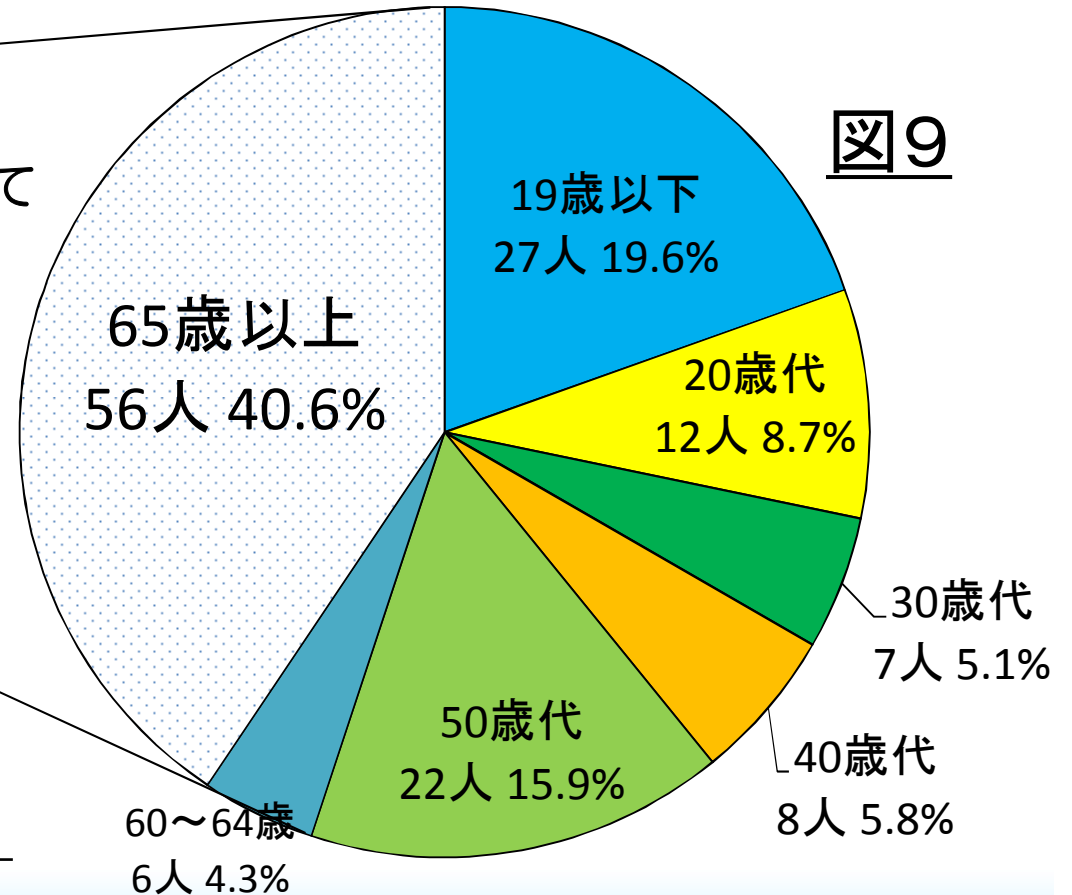
歩行中の交通事故死傷者数

図8



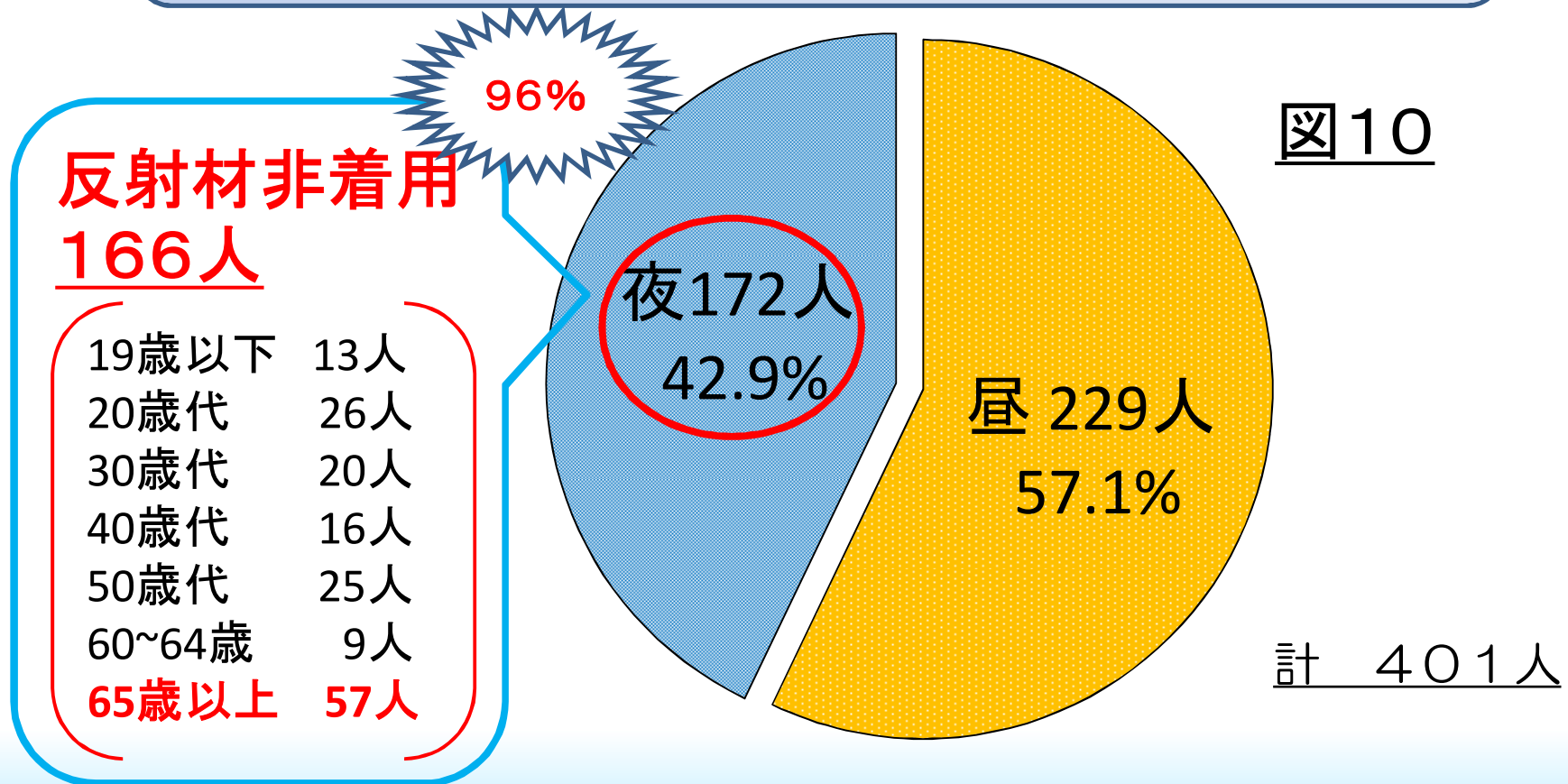
計 391人 (第1、2当事者のみ)

図9



(分析6) 歩行中の交通事故死傷者数と 夜光反射材着用率の関係

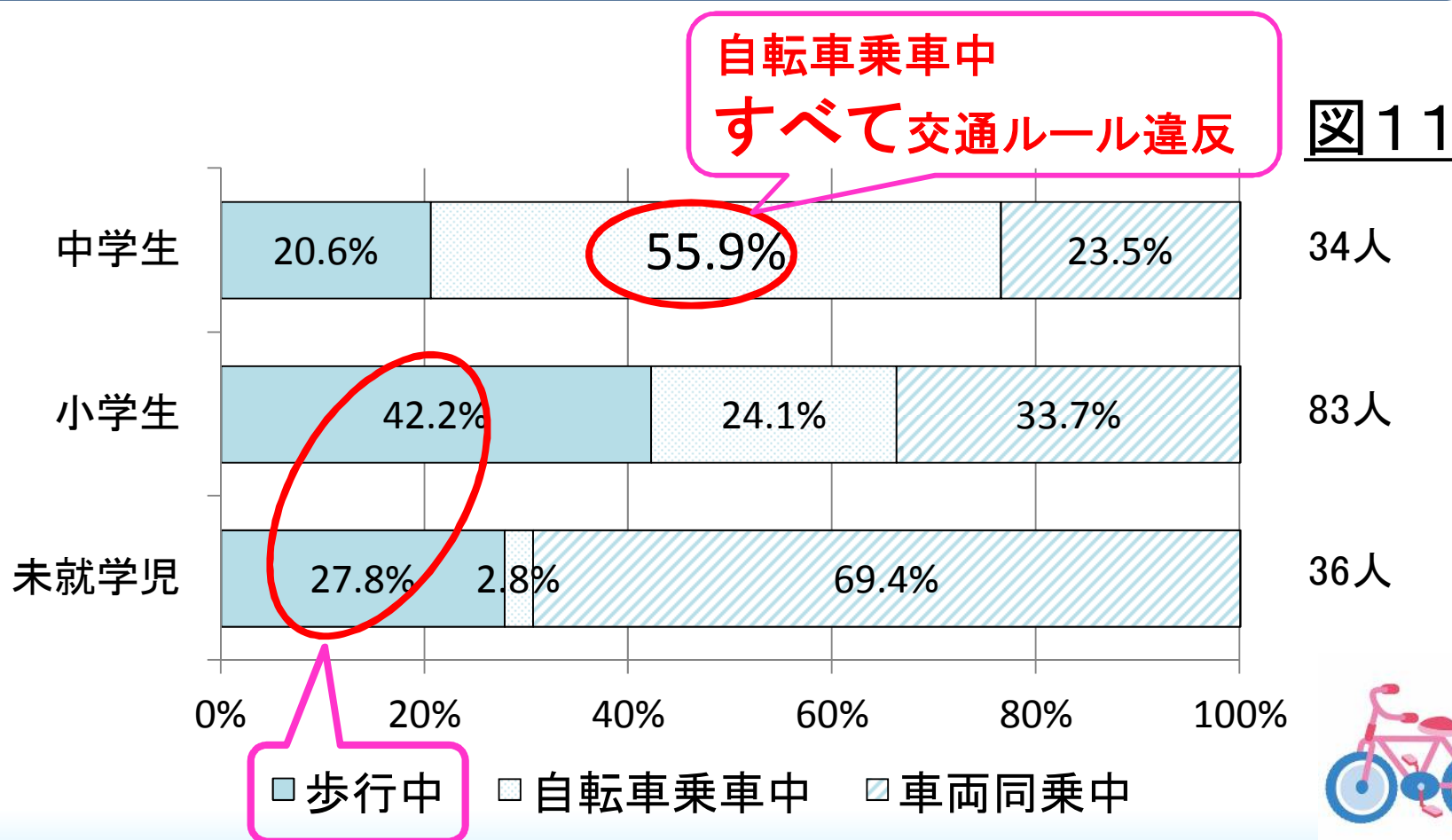
交通事故死傷者は夜間が約4割を占め、その大半が夜光反射材非着用。中でも、65歳以上が多い



【出典】鹿児島県警察本部(交通企画課)調べ 【データ】市、両性、全年齢、2013年

(分析7) 学齢別・交通事故状態別の負傷者の状況

中学生は自転車乗車中の負傷者が多く、
未就学児、小学生は歩行中の負傷者が多い

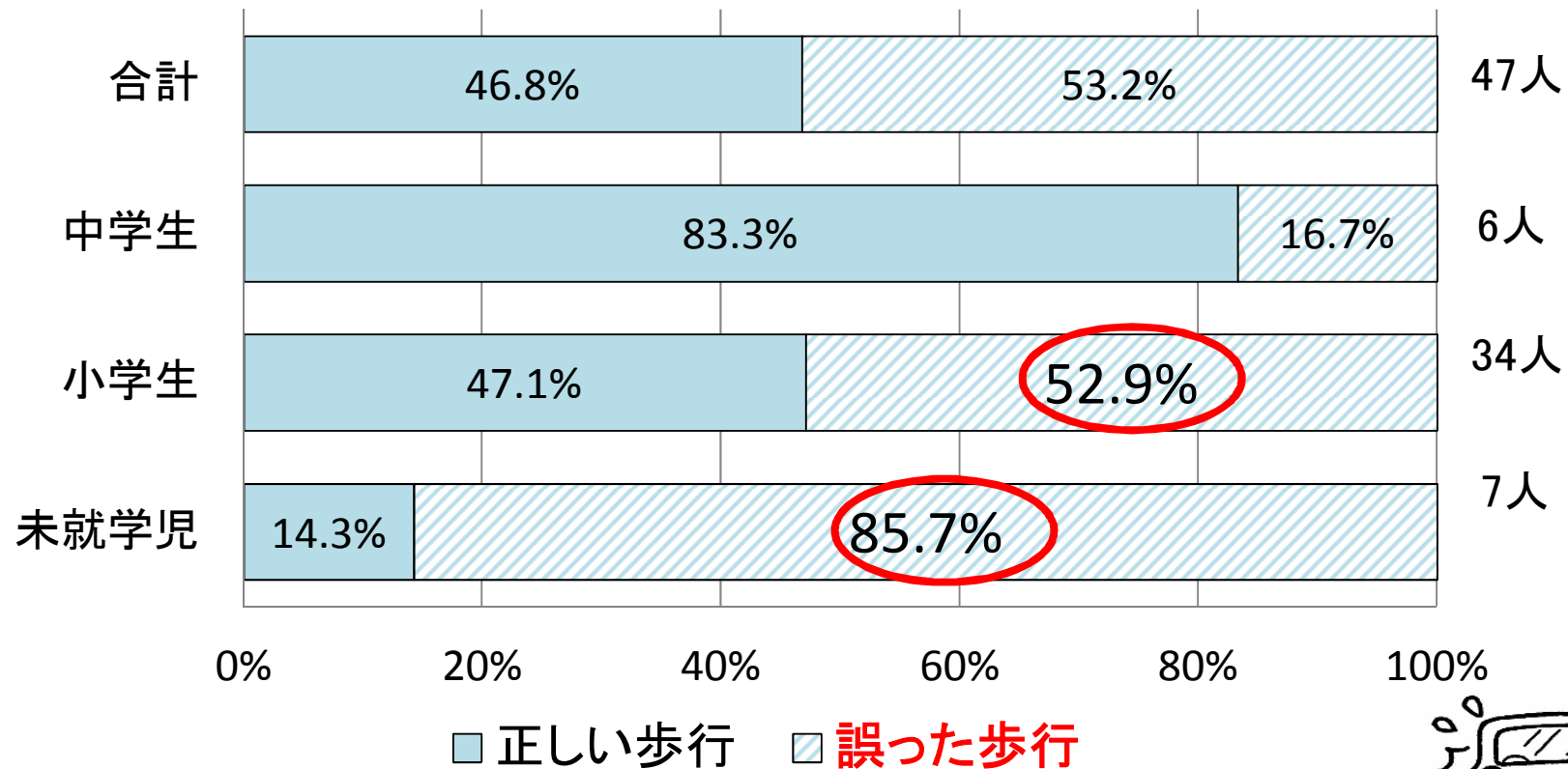


【出典】鹿児島県警察本部(交通企画課)調べ 【データ】市、両性、中学生以下、2013年

(分析8) 学齢別における歩行中の交通事故死傷者の状況

未就学児、小学生は、交通ルールを守らずに交通事故に遭い、死傷することが多い

図12



(第1、2当事者のみ)



【出典】鹿児島県警察本部(交通企画課)調べ 【データ】市、両性、中学生以下、2013年

(分析9) 子どもの保護者が注意したいと思う事故の種類 (LA)

保護者の多くは子どもの交通事故を懸念している

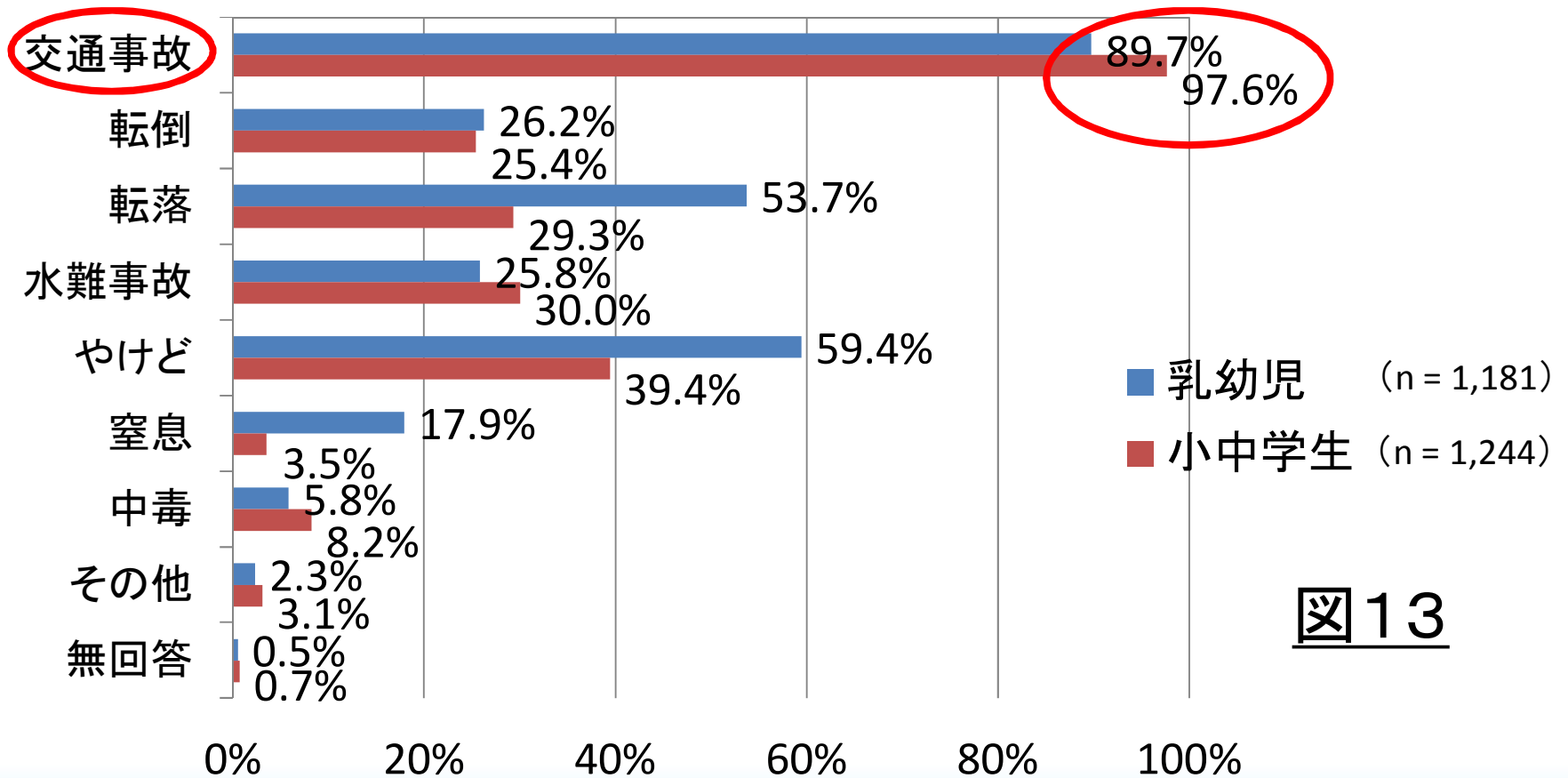


図13

データ分析による課題の集約と委員の主観的な意見

課題 A

- ・交通事故死傷者は自動車等乗車中が多い。
 - ・ちょっとした不注意での交通事故が多い。
 - ・後部座席シートベルト着用率が低い。
- (分析1)(分析2)(分析3)

- ・運転者の緊張感の欠如などが交通事故を引き起こす。
- ・高齢運転者は、自身の身体能力や認知能力の低下を認識できていないかもしれない。

課題 B

- ・交通事故死者は歩行中の高齢者が多い。
 - ・交通ルールを守らずに交通事故に遭い、死傷した歩行者は高齢者が4割を占める。
 - ・歩行中の交通事故死傷者は夜間が4割を占め、うち高齢者が多く、その大部分が夜光反射材を付けていない。
- (分析4)(分析5)(分析6)

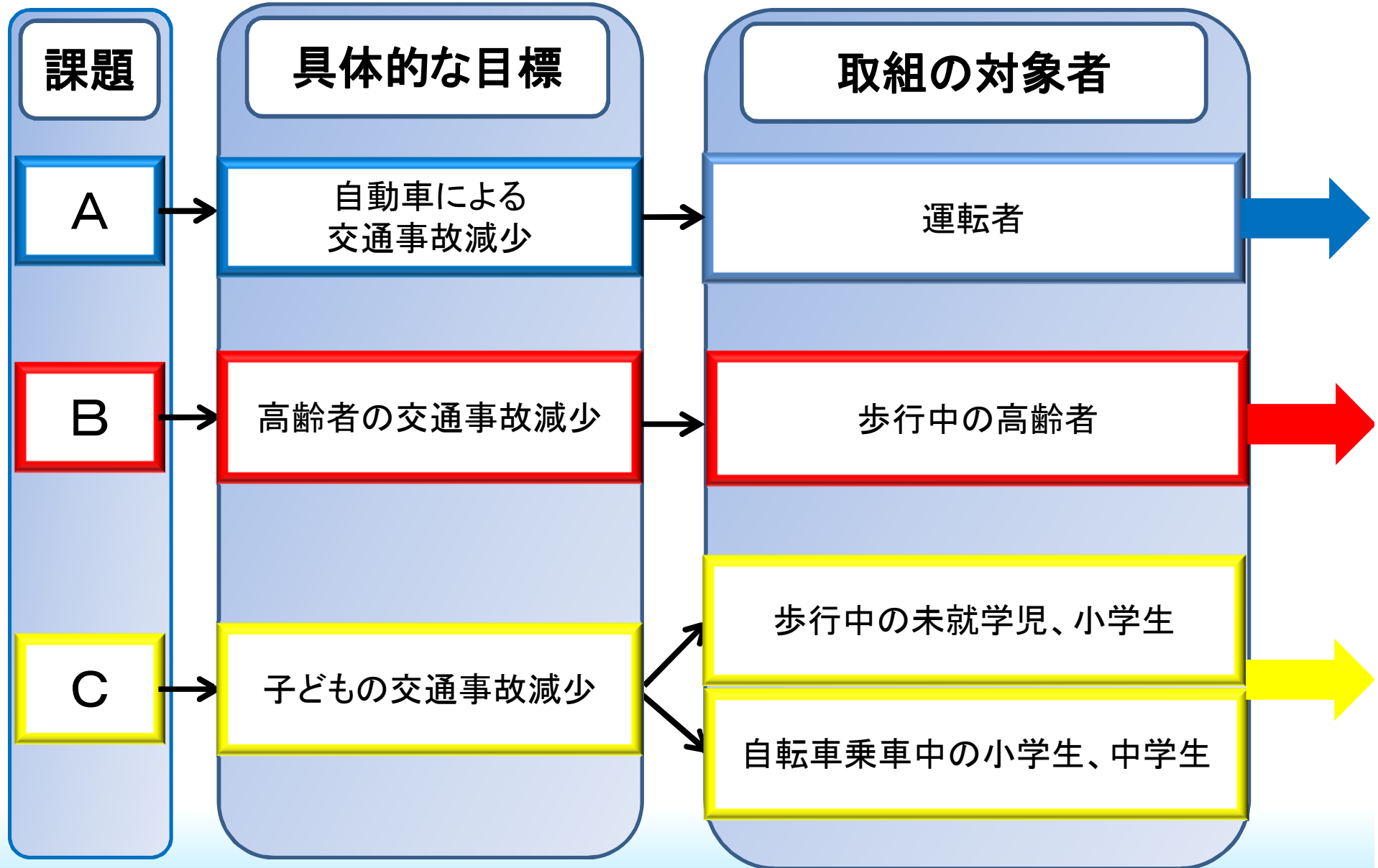
- ・夜光反射材をいかに高齢者に着用してもらうか。
- ・高齢者に対して個別具体的な指導を行う必要がある。

課題 C

- ・中学生は自転車乗車中の交通事故負傷者が多い。
 - ・子どもは交通ルールを守らずに交通事故に遭い、死傷することが多い。
 - ・保護者が最も気がかりなのは子どもの交通事故である。
- (分析7)(分析8)(分析9)

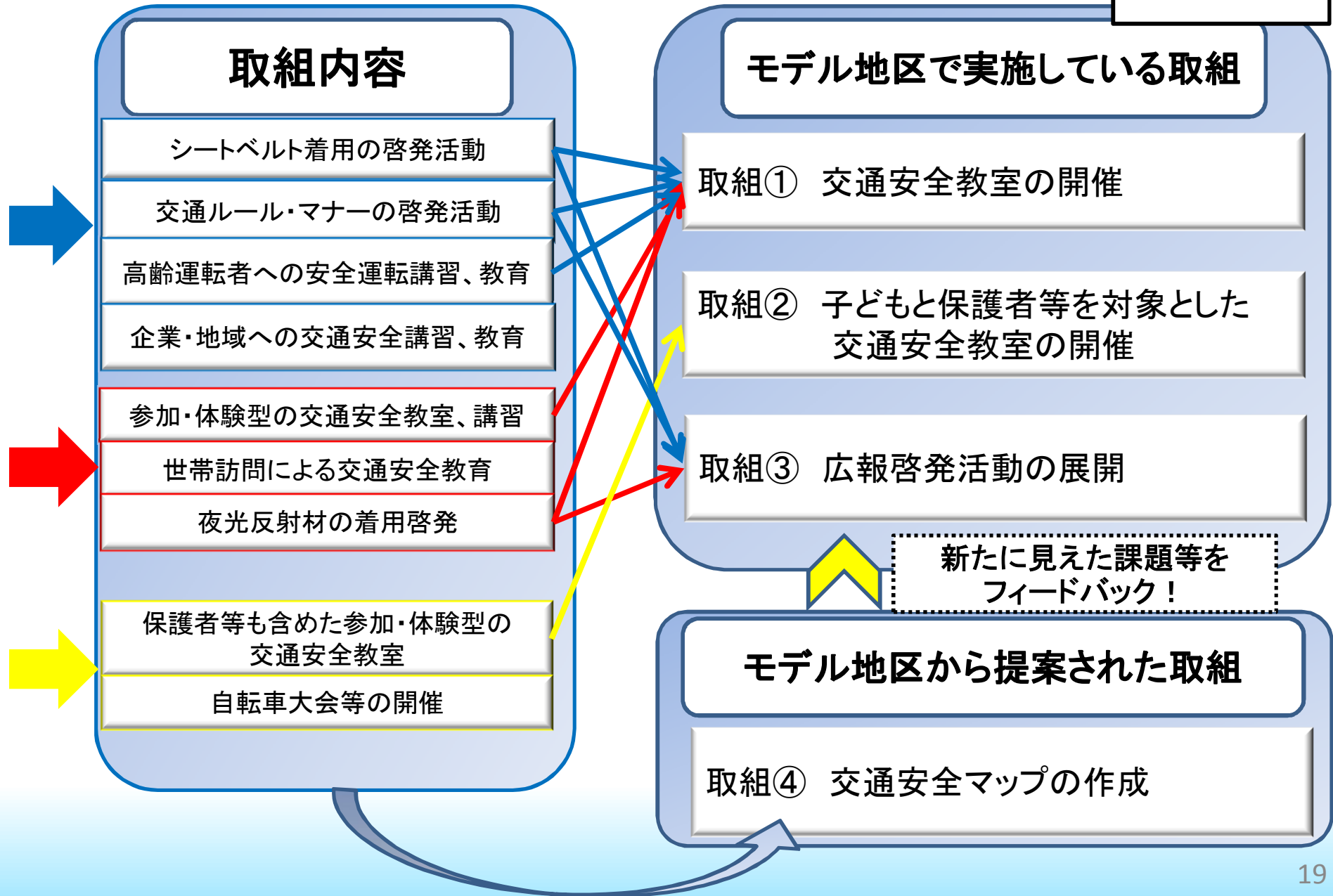
- ・発達段階ごとに、どういった交通安全教室を行っていくかが重要である。
- ・子どもと保護者等と一緒に交通ルールを学ぶ機会があるとよい。
- ・自転車大会等を開催することで、マナーを守った自転車の走行を促すことができる。

課題から見える具体的な目標と対象者



課題解決に向けた取組内容の決定

H25. 11以降

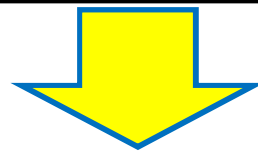


取組を実施するモデル地区の設定

- ・ 地域の安全確保のための活動を行う「**地域安心安全ネットワーク会議**」が活発である
- ・ 地域の児童数や高齢者数が増加傾向にある
- ・ 交通安全を地域の課題として認識している

学校や町内会等で構成
地域の安心安全に関する
活動に取り組む

吉野地域の吉野小校区をモデル地区に決定！



セーフコミュニティを始めてからの変化

関係する団体を吉野校区安心安全ネットワーク会議に追加
(22団体⇒34団体)

〔追加団体: 幼稚園、保育園、お達者クラブ、長寿クラブ、タクシー会社〕

吉野地域の地理的特徴



交通事故
多発!!

特徴

- ・ 市の中心部から北へ約8km
- ・ 標高180mから260mの高台
- ・ 交通量の増加に伴う交通渋滞を緩和するため、区画整理が進行中
- ・ 県道鹿児島吉田線一帯で交通事故が多発

取組① 交通安全教室の開催

充実



課題A:自動車に関する
課題B:高齢者に関する
交通事故減少に向けた取組

身体機能低下の
影響を認識!

防犯教室に交通安全教室を追加



高齢者疑似体験セットによる道路横断体験



夜光反射材の効用体験

お達者クラブの活動に交通安全教室を追加



組合せゲーム



ドライビングシミュレータによる講習

取組② 子どもと保護者等を対象 とした交通安全教室の開催

充実



課題C:子どもに関する
交通事故減少に向けた取組

防犯教育に交通安全教育を追加



①横断実技（横断歩道の正しい横断方法）

開催数 ⇒ 2回
延べ参加者数 ⇒ 248人

年齢に応じた教育が必要！

子どもと一緒に保護者や教員も参加



②自転車実技（自転車の乗車方法）

取組③ 広報啓発活動の展開

充実



課題A:自動車に関する
課題B:高齢者に関する
交通事故減少に向けた取組



高齢者が集まるイベントでの啓発活動



多くの人が集まる店舗前での
交通事故防止活動

多くの方に啓発



交通量の多い県道で
交通安全リーフレットを配布

開催数 ⇒ 4回
延べ参加者数 ⇒ 805人
リーフレット配布数 ⇒ 1,372枚
夜光反射材配布数 ⇒ 200個

取組④ 交通安全マップの作成

新規

モデル地区関係団体等が協働し、危険箇所を検討



モデル地区でのグループワークの様子



作成中の交通安全マップ

対策委員会と連携し、マップの作成を進め、新たに見つかった課題をモデル地区での取組に反映させる



作成中
です！

セーフコミュニティによる変化と気づき

交通安全対策委員会の設置

吉野校区安心安全ネットワーク会議への関係団体の加入

鹿児島県警察セーフコミュニティ支援推進委員会の設置

地域住民、関係団体、行政等が実施している活動を共有でき、協働体制が充実

鹿児島市に特化した統計データの提供体制が充実

積極的に交通安全の取組を行うことができるようになった

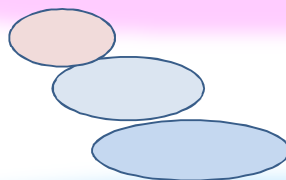
緻密なデータ分析が可能となり、より課題が明確になった

**問題意識の向上・共有
交通安全対策の充実**

課題と展望

課題

- ・交通安全教室等への参加者が固定化する傾向にある
- ・モデル地区の取組をいかに全市に広めていくか
- ・モデル地区で作成した交通安全マップをどのように活用していくか



展望

- ・評価の仕組みを検討し、それぞれの取組に反映していく
- ・活動に参加しない人への参加を促し、地域住民が一体となった交通安全運動を進める
- ・吉野小校区の取組をモデルに、その地域にあった取組として、市内全域に拡大していく

ご清聴ありがとうございました



～世界基準の安心安全都市を目指して～

みんなでつくるセーフコミュニティかごしま